

評価対象	評価項目	具体的数値項目	方 策	第1回点検・評価		第2回点検・評価			
				自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	○総合学科の特色を生かし、生徒の様々な能力を伸ばし、課題に挑戦させていますか。	1.産業社会と人間や総合的な学習の時間をとおして、職業や社会に興味をもつ生徒が80%以上である。 2.課題研究や探究活動などの探究・発表活動に取り組み、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけている生徒が80%以上である。 3.CS1・2を通して身につけた資質・能力を積極的に記録し、ポートフォリオを作成している生徒が80%以上である。	1.「未来の教室」「社会人インタビュー」「職場体験」などで社会人の話を聞く機会を設けると共に、話を聞く面白さを意識すると共に、地域や社会への興味関心を喚起するような授業展開を工夫する。 2.CS2の探究活動、3年生の課題研究の講座ごとに実社会との接点を意識した取り組みを行い、学校での学びが社会につながっているという意識を醸成する。 3.Classiと吉井夢ファイルを活用し、学びのサイクルごとに振り返りを配信し、生徒のポートフォリオ作成を促す。	B	A	・体験や振り返りを通して社会への興味を持つように、各取り組みの目的を明確にする。 ・全体発表会の前に、講座単位でのグループワークや、発表を行う機会を多く設けることで、社会性を高める機会とする。 ・夢ファイルは活用できているが、Classiの活用についてはできていない。科目選択をきっかけに使用できるように啓発する。	B	A	・体験する内容が多いため、発表や振り返りを充実させ、社会とのつながりを意識づけしていきたい。 ・社会性を育成するために、個人での活動とグループ活動の明確な線引きが必要である。活動内容による手段の使い分けを明確にしたい。 ・夢ファイルは活用できているが、Classiはなかなか利用できなかった。データ保管しておくことの意義を含め、検討が必要である。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	○生徒は確かな学力を身につけていますか。 ○生徒は授業で主体性、コミュニケーション能力、やりきる力を身につけていますか。	1.自分の将来のために、自ら学習に取り組もうとする生徒が70%以上である。 2.授業を通じて、主体性、コミュニケーション能力、やりきる力を身につけている生徒が80%以上である。	1.全ての授業で主体的・対話的で深い学びを実現できるような授業改善をすすめる。 2.授業改善推進委員会を中心に、組織的な授業改善を行う。年3回の公開授業週間などを通じて、その成果を共有する。	B	A	・授業公開週間の活動を活発にすることで、授業改善をすすめる。 ・職員研修を通して、生徒の資質・能力を評価するためのルーブリック作りを行い、活用する。	B	A	・授業を通して、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、授業改善をすすめる。 ・公開授業の成果や課題の振り返りを充実させ、生徒の資質・能力の妥当な評価方法を検討する。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	○生徒は安心して、充実した学校生活を送っていますか。 ○交通規則を守り、交通事故を起こさないようにさせていますか。 ○生徒が自ら規範意識を高めていますか。	1-1.いじめ防止への取り組みを90%以上の生徒・保護者が理解・確認している。 1-2.学校生活や部活動が充実していると感じている生徒が80%以上である。 2.交通事故発生件数が年間を通じて5件以内である。 3.社会規範や校則を守ろうと努めている生徒が80%以上である。	1-1.PTA総会や三者面談・HPを利用し、いじめ防止の取り組みを周知させる。 1-2.生徒・保護者向けアンケートを参考にし、実施後に検証を行う。 2.マナーアップ時に交通委員を活用することや街頭交通指導を実施する。 3.昼休み巡回指導で生活委員が生徒に対する「マナーアップ指導」を推進する。	B	A	・あらゆる機会を活用し、いじめ防止に関する情報提供を継続的に実施。 ・部活動活性化のための企画を考察する。 ・委員会活動を活性化し、生徒主体で実施できる企画を検討する。 ・教師と生徒の共同活動として生徒の規範意識向上に向けた巡回指導を継続する。	B	A	・いじめに対する初期対応を組織として考える。いじめ防止に係わる取り組みを考察する。 ・部活動リーダー養成研修会を継続的に計画する。 ・交通事故防止に向け街頭指導を強化する。 ・一人一人が学校の風紀に対して関心を持ち、安心・安全な学校づくりに協働する。
IV 生徒が心身ともに健康で安全な学校生活を送れるように適切な指導をしていますか。	○生徒は心身の健康管理に気をつけて学校生活を送っていますか。 ○生徒はコミュニケーション能力を高め、良好な友人関係構築に努めていますか。	1.心身の健康管理に気をつけている生徒・保護者が80%以上である。 2.友人とのコミュニケーションに気を配り、交友関係がうまくいっていると感じている生徒が80%以上である。	1-1.毎月の欠席数調査やケース会議をもとに、学年・係・SCの連携を図る。 1-2.保健委員会の活動を活発化させ、生徒自身の健康管理意識を高める。 2-1.コミュニケーション能力の向上を目的にした講演会やHR活動を実施する。 2-2.アンケートや心理検査により生徒の悩みを早期に発見し、SCを積極的に活用した早期対応を図る。	B	A	・取組を継続し、生徒情報の共有を密にするよう努める。 ・文化祭、学校保健委員会で調査・研究・発表を行わせる。 ・SCを活用し、問題意識をもったりトラブルが生じたりした生徒の個別ケアを中心に行う。 ・高校生活アンケート、いじめアンケート等により、呼出相談を行う。	B	A	・欠席や遅刻が多い生徒に対する指導については具体的な方策の検討が必要である。 ・日常的な保健委員会の活動を活発化させたい。 ・SCの活用や開発的教育相談を継続発展させるとともに、教員による日々の生徒観察や声かけによるアプローチを提案していきたい。
V 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	○就職・進学に対応した計画的な指導を行っていますか。 ○学力や学習意欲を高める取り組みを行っていますか。	1.年度末の進路希望未定生徒が5%以下である。 2.学びの基礎診断(進路マップ)結果の学習力が2回の比較で向上する。	1.年間3回以上の面談や自己の振り返り指導により具体的な進路目標を持たせる。 2.学力検討会議において学習意欲向上への取り組みの具体的な方策を決め、実践する。	B	B	・進路希望調査結果を学力検討会議の中で取り上げ、目標の明確さと学力の関係から、目標の定まっていない生徒との面談等を行っていく。 ・日々の生徒の様子を踏まえ、学年主導で様々な対策を実践していく。	B	B	・進路について深く考えさせることが本来の指導目的であることから、具体的な数値項目を変え、進路希望調査で本人の進路実現への本気度を数値化させ、把握する。 ・学習することの大切さを実感させる講演会等を実施して動機付けを図る。
VI 開かれた学校づくりに努めていますか。	○家庭・地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	1.PTA支援活動を年4回行い、活動内容を理解してもらえるように年5回HPを更新する。 2.PTA新聞を年2回発行し、保護者の70%が内容に満足している。	1.PTA支援活動や研修会などの報告をHPに掲載し、活動内容を理解してもらえるようにする。 2.編集委員会の活動を活性化し、保護者の意見を取り入れ新聞の内容を充実する。	C	A	・HPの更新はまだできていない。支援活動がこれから本格化するので、WEB発信していく。 ・PTA会報の1回目98号は編集委員の意見を取り入れながら発行できた。	B	A	・HPの更新はこまめにはできなかったが、活動内容は発信でき、行事へも積極的に参加してもらえた。 ・会報99号は役員の見解を取り入れながら編集し、保護者の寄稿も充実し、しっかりしたものができた。
	○Webページを通じて、生徒の高校生活の様子が保護者や地域住民に発信されていますか。	1.Webページの保護者の閲覧数が70%以上である。	1.学校のPRとなる出来事をWebページに掲載していく。 2.部活動の上位入賞の報告、行事の様子を随時掲載していく。	B	C	・学年や部活動、分掌からの依頼により、随時の対応が、システム上、以前より速やかに行えるようになった。 ・三者面談や保護者会においてPRするとともに、魅力的なWebページになるようコンテンツを充実させる。	B	C	・以前より、速やかにページの更新ができるシステムとなり、最新に近い情報を提供できるようになった。 ・Webページの更新作業をできる職員に限られていることと、起案してからの掲載となるので、保護者が求めるようなリアルタイムの掲載は難しい。

A 充分達成できた B 達成できた C もう少しで達成できた D 達成できなかった